竹田の子守唄 京都府

守もいやがる盆から先にや

雪もちらつくし 子も泣くし

盆が来たとて なにうれしかろ

かたびらはなし 帯はなし

この子よう泣く 守をばいじる

守も一日 痩せるやら

早よも行きたや この在所越えて

向こうに見えるは 親のうち

向こうに見えるは――

親の――うーち――